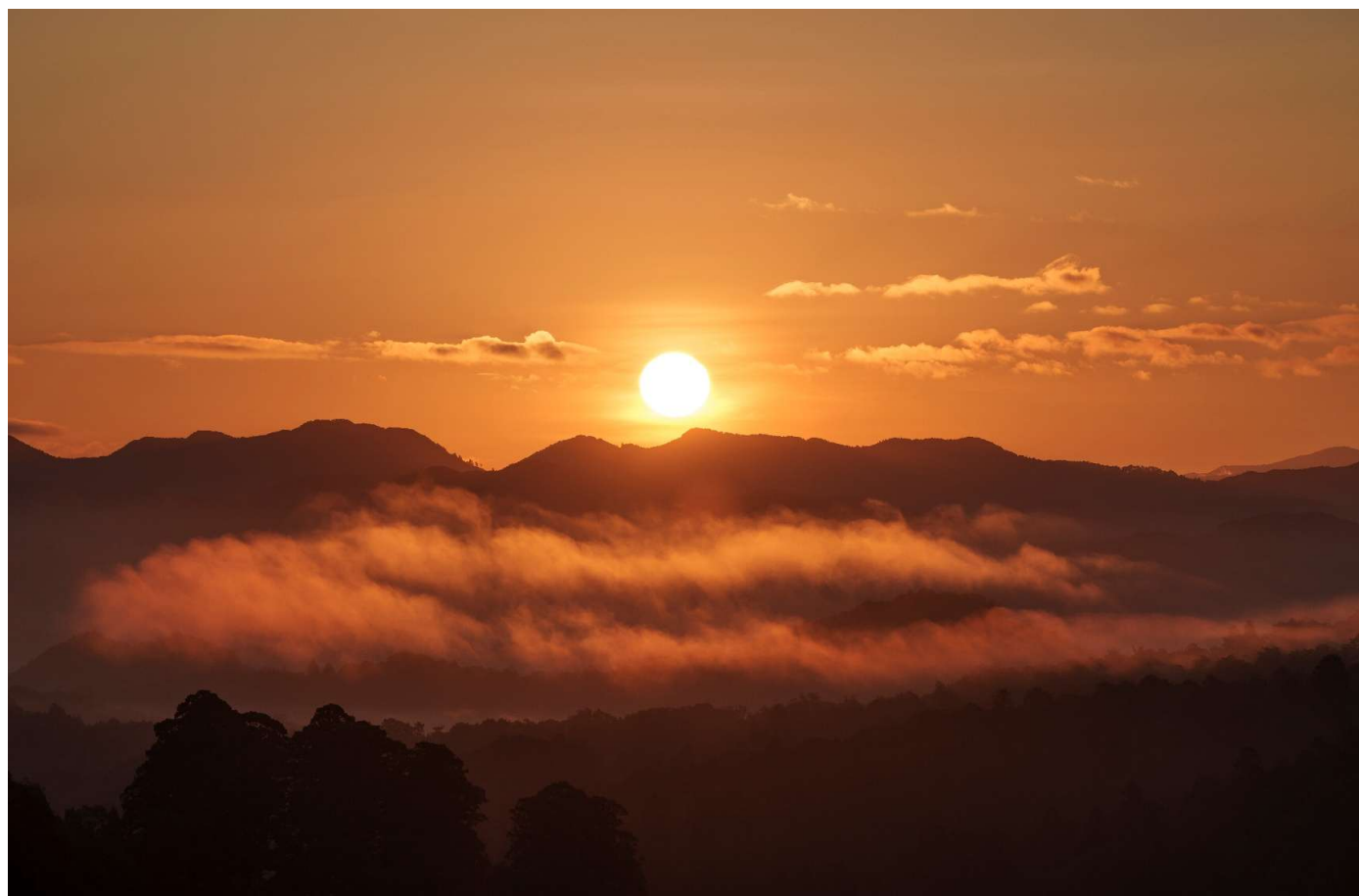




みどり 水土里ネット 奈良

奈良の土地改良

発行：令和8年1月
奈良県土地改良事業団体連合会
奈良県橿原市城殿町459番地
TEL0744-29-1310
FAX0744-29-1312
<https://www.naradoren.or.jp>



宇陀市宮奥 撮影：Around Focus 辻本勝彦

目次	1. 令和8年新年のご挨拶	
	奈良県土地改良事業団体連合会 会長 奥野信亮	1
	奈良県 知事 山下真	2
	全国水土里ネット会長会議顧問 参議院議員 進藤金日子	3
	2. 『農業農村整備の集い』に参加	4
	3. 令和8年度に向けた政策提案・要望活動	5
	4. 「男女共同参画推進大会 in くもと」に参加	6
	5. 第47回全国土地改良大会佐賀大会に参加しました	7
	6. 第48回全国土地改良大会奈良大会のお知らせ	9
	7. 「一の木ダム周辺クリーンアップ作戦」に参加	9
	8. 令和7年度 奈良県土地改良区連絡協議会総会 開催	10
	9. 令和7年度 技術実践向上研修 開催	10
	10. 公益財団法人 農業振興会館 第33回美アップ農村・レディセミナー 開催	11
	11. 令和7年度 奈良県土地改良事業団体連合会 理事会 開催	12
	12. 令和7年度 農業農村整備事業意見交換会【NNキャラバン】	13
	13. 令和7年度 近畿ブロック女性理事意見交換会	13
	14. 奈良県農村地域づくり協議会員のご紹介(大淀町中増地区)	14
	15. 「未来へつなごう！ふるさとの水土里(みどり)子ども絵画展 2025」受賞作品	15
	16. 農家負担金軽減支援対策事業のご紹介	17
	17. 農村振興シンポジウム開催のお知らせ	18
	18. ため池支援センターだよりのご案内	18

令和8年 年頭ご挨拶

奈良県土地改良事業団体連合会
会長 奥野 信亮



奈良県土地改良事業団体連合会の会員皆様方におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素より、奈良県農業を支える土地改良事業の推進、農村地域の活性化を図る活動、さらには当連合会の運営に多大なるご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年来、いわゆる令和のコメ騒動により米価が高騰し、政府の「需要に応じた生産」との方針も相まって、例年にも増して水田農業が注目されております。また、去年は少雨傾向で農業用水不足が懸念されましたが、本県においては大和平野地域の吉野川分水をはじめとする水源と、地域の皆様方による適正な水管理により、高温障害に見舞われたものの、例年どおりの作況となりました。これも、先人たちが昭和の時代から築き上げてこられた土地改良施設のおかげであると改めて感謝する次第です。

国においては、農業構造転換集中対策など食料安全保障の強化、農業農村の持続的発展を図るため、令和7年度補正予算2,439億円、令和8年度当初予算4,504億円の農業農村整備予算を計上いただきました。今後見込まれる農家の減少に備え、省力化に対応した生産基盤の整備・保全は不可欠であり、農地の集約化とスマート農業技術への対応が一層求められてまいります。土地改良関係の皆様方におかれましては、これらの予算を活用し、各地域で策定いただいた「地域計画」や、今後策定予定の「水土里ビジョン」の実現に向け、各種事業に取り組んでいただけるよう、当連合会といたしましても積極的に支援してまいります。

さて、昨年夏の参議院選挙においては、私たち農業農村の代表者である宮崎まさお候補に多大なるご支援を賜りましたものの、残念ながら当選には至りませんでした。今後は、進藤かねひこ参議院議員に地域の声を届け、政策に反映いただけるよう、皆様方とともに取り組んでまいりますので、引き続きのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

また、本年11月17日には、奈良県で初めてとなる全国土地改良大会を奈良県コンベンションセンターにて開催いたします。奈良は古代より稲作農業の基盤が築かれ、国家の礎となった土地であることから、「はじまりの奈良 これからの奈良」を大会趣旨とし、土地改良が育んだ水・土・里を全国に発信し、次世代につないでいくことを目的に、県内外の関係者を全国各地からお迎えいたします。土地改良施設のみならず、奈良県の食、農産物、農村の魅力を全国に発信し、本県農業農村のさらなる活性化につながる大会となるよう努めてまいりますので、会員皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本年の皆様のご健勝とご多幸、ご発展を祈念し、新年のご挨拶といたします。

令和8年 新年を迎えて

奈良県
知事 山下 真



奈良県土地改良事業団体連合会会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

奈良県土地改良事業団体連合会におかれましては、昭和35年の設立以来、市町村や土地改良区が行う農業基盤整備や施設の維持管理、農村地域活性化に向けた取組を進めていただいていることに対し厚くお礼申し上げます。

「農業の憲法」と呼ばれている「食料・農業・農村基本法」が四半世紀ぶりに改正されたことを受け、昨年「食料・農業・農村基本法」に基づく「食料・農業・農村基本計画」が閣議決定されました。また、土地改良法の改正などを踏まえ、1年前倒しで新たな「土地改良長期計画」も閣議決定されました。両計画とも食料安全保障の確保を基本理念に諸施策を進めていくこととされ、生産性向上に向けた生産基盤の強化として「大区画化」の推進が示されており、農業農村整備事業はこれまで以上に重要な役割を担うこととなります。

しかし、本県においては、耕地率が全国的に低く地理的制約が大きいことに加え、50アール未満の小規模農家が多いため、大区画化に向けた地域の合意形成は容易ではないと認識しています。

現在、県では、「サステナブルな奈良の水田営農」の取り組みにより、将来的に集落単位での大規模営農を見据え、まずは農家のグループ化を進め、水田の集積・集約に向けて取り組んでいるところです。

今後、こうした集約化の進展に合わせて、本県特有の条里制により築かれた整然とした区画の特性を活かしつつ、畦畔除去などの簡易な整備を行い、奈良らしい効率的な区画拡大を進めてまいりたいと思っておりますが、これらの取組には貴会の役割はますます重要となってまいります。引き続き、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、農地の有効活用と生産性向上では、県内9地区において市町村や地域の皆様と協定を結び、「特定農業振興ゾーン」として、高収益作物の導入と農業生産法人による組織化と併せ、より効率的な営農ができるよう基盤整備等に集中的に取り組んでいます。

防災・減災対策では、防災重点農業用ため池の整備と併せた治水活用の推進など、受益者のご理解・ご協力のもと関係機関と連携し、激甚化する豪雨などの災害に備えた対策をすすめております。

さらに、農村振興対策では、担い手が高齢化していく中で地域の共同活動を継続するため、農村振興シンポジウムの開催や農村地域づくり活動への支援など、農村地域の活性化に向けた取組を続けてまいります。

県土連におかれましては、本年11月に全国土地改良大会の開催を予定されており、全国各地より3,000名余りの関係者が来県されると聞いております。

県におきましても、土地改良の取り組みはもとより、奈良の食、農産物、観光のPRを行う絶好の機会と捉えております。大会の成功に向け、一緒に取り組ませていただきますのでよろしくお願い申し上げます。

結びに、奈良県土地改良事業団体連合会会員の皆様にとって、実り多い年になりますようお願い申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

新年にあたって

全国水土里ネット会長会議顧問
参議院議員 進藤 金日子



あけましておめでとうございます。奈良県土地改良事業団体連合会の会員並びに関係の皆様には、私の政治活動にご理解とご支援を頂戴し、厚く感謝申し上げます。本年も現場主義、地域主義に徹し、農業農村の振興に努めてまいりますので、よろしくご指導をお願い致します。

さて、去年は、農政、国土強靱化、我が国経済にとって節目の年であったと考えています。土地改良法改正、食料・農業・農村基本計画の策定、農業構造転換集中対策の開始、新たな土地改良長期計画と第一次国土強靱化実施中期計画も策定されました。10月に高市早苗内閣が発足し、日本経済強靱化計画（通称サナエノミクス）が提唱され、我が国の経済転換の期待も広がっています。

3月の土地改良法の改正では、農業生産の基盤の整備に加えて保全に必要な施策を講ずることが明定され、土地改良区が市町村等と連携していわゆる水土里ビジョンを作成し、土地改良施設及び末端施設の保全を行う仕組みを位置付けました。

4月に策定された食料・農業・農村基本計画では、令和7年度からの5年間で農業の構造転換を集中的に進めることとし、「農地・水の確保」、「地域計画に基づく担い手への農地集積・集約化」、「農地の大区画化」等に関し具体策を位置付け、また、「食料システム全体で合理的な費用を考慮した価格形成を推進」することも位置付けました。自民党は、基本計画の実施に関して別枠予算の確保を求め、私はこれらの事業規模の積算を託され、実務的に2.5兆円の積み上げを行いました。

9月には新たな土地改良長期計画が策定され、「基盤整備による生産コストの低減」、「農業水利施設の戦略的な保管理による持続的な機能確保」、「激甚化・頻発化する災害に対応した防災・減災対策」等に関する5つの目標を設定しました。

6月には第一次国土強靱化実施中期計画が策定され、令和8年度から令和12年度に推進が特に必要となる施策目標を設定、5年間の事業規模を「おおむね20兆円強程度」を目途としました。土地改良では、防災重点農業用ため池の防災・減災対策、農業水利施設等の老朽化・耐震化対策などを進めることとしています。

11月には、総合経済対策が閣議決定され、食料安全保障の確立、防災・減災・国土強靱化等を推進していく上で必要な対策と予算が盛り込まれ、土地改良関係では2,439億円が措置されました。

これらの政策を進めるためには土地改良の推進が重要です。特に農業構造転換集中対策期間の5年間で別枠予算も確保して強力に進めていく必要があります。令和8年度に執行可能な土地改良予算は、令和7年度補正2,439億円と令和8年度概算決定4,504億円の合計6,942億円(昨年比442億円増)となっています。予算のスムーズな執行に対する貴連合会による技術支援とご協力をお願いいたします。私は本年も土地改良の推進のため努力してまいりますので、皆様方からの益々のご指導、ご支援をお願いし、新年のご挨拶と致します。

『農業農村整備の集い』に参加



令和8年度当初予算の確保に向け、「農業農村整備の集い」が、全国から1,200名を超える土地改良関係者が参集し、令和7年11月26日（水）、東京都千代田区シェーンバッハ・サボーにおいて、開催されました。奈良県からは土地改良区ほか関係者 計31名が参加しました。年2回開催される「集い」は、農業農村整備に携わる関係者が一堂に会し、現場における課題の再確認と、諸課題に緊急に対応するため農業農村整備の一層の充実と推進を期する事を目的としています。まず始めに二階俊博全土連会長の主催者挨拶のあと、鈴木農林水産大臣、城内実日本成長戦略担当大臣、森山裕自民党食料安全保障強化対策本部長、進藤金日子全国水土里ネット会長会議顧問の来賓挨拶がありました。その他にも多数の国会議員や農林水産省幹部の方々が駆けつけました。



菅谷義寛 常務理事

◆ 要請文朗読 ◆

奈良県土地改良事業団体連合会 菅谷義寛常務理事が、令和8年11月17日に開催される全国土地改良大会奈良大会について、『全国の土地改良の同志の皆様、大和の水土里を全国に発信して次世代へと引き継ぎこれからも皆様とともに、土地改良で水土里を育み、農業農村、国の発展に尽くしましょう。女性総理誕生や令和8年の大河ドラマでは奈良が舞台となります、今奈良はブームであります、はじまりの地奈良 大和へどうぞお越し下さい。心から歓迎します』と挨拶して、要請文を朗読し、全会一致で採択されました。

◆◆ ガンバロウ三唱 ◆◆

最後に、奈良県土地改良事業団体連合会 上田美加子理事が「大和まな」を持って指揮をとり『来年の全国土地改良大会奈良大会では、奈良の歴史や文化も感じていただきたい。関係者一同心よりお待ち申し上げます。また、土地改良は農を支え食料安全保障を支える。土地改良事業に必要な予算をしっかりと確保するため、皆様と心をひとつにかんばろう』と述べ、参加者全員による「ガンバロウ三唱」で、幕を閉じました。全国大会のPRを含めて、活気ある集いとなりました。



上田美加子理事 ガンバロウ三唱

令和8年度に向けた政策提案・要望活動

令和8年度に向けた政策提案・要望活動を、奈良県土地改良事業団体連合会、奈良県農業農村整備事業推進協議会、奈良県土地改良連絡協議会3者合同で、令和7年11月19日(水)、20日(木)に行いました。県、市町村、土地改良区等20名が参加し、進藤金日子参議院議員及び奈良県選出の国会議員、農林水産省・財務省に、これまでの農業農村整備の成果を踏まえて地域の実情を説明するとともに、さらなる課題解決に必要な予算確保に向けての要望活動を行いました。

【奈良県の農業・農村の振興に関する政策提案・要望書】

1. 基盤整備等にかかる予算確保
2. 地域の実情に応じた水田農業への支援
3. 建設資材や労務費高騰に伴う支援対策
4. 土地改良施設の保全・管理体制の強化
5. 日本型直接支払制度継続のための支援と予算確保
6. 地域の実情に応じた農地活用の支援
7. 第48回全国土地改良大会奈良大会の開催について



高市 早苗 内閣総理大臣
(秘書対応)



佐藤 啓 内閣官房副長官
(秘書対応)



堀井 巖 外務副大臣



小林 茂樹 文部科学副大臣



田野瀬 太道 衆議院議員



進藤 金日子 参議院議員



農林水産省 青山 健治 農村振興局次長



農林水産省 農村振興局
石川 英一 整備部長



財務省主計局(農林水産係担当)
宮下 賢章 主計官

「男女共同参画推進大会 in くもと」に参加

令和7年11月4日(火)～5日(水)、ホテルメルパルク熊本において、全国水土里ネット女性の会、くもと水土里ネット女性の会主催による「つながる、広がる、農業農村の力。男女共同参画推進大会inくもと」が開催されました。

本大会は、農業農村整備に携わる女性が一堂に集い、男女共同参画の推進と地域農業の持続的な発展を考える場とすることを目的としています。

大会には全国から約200名が参加し、4日には大会式典と交流会が、5日には2コースに分かれて熊本県内で現地研修が行われました。

◆基調講演◆「やる気スイッチは押しつ押しされつ」



福岡県みやま市農業委員会会長
山川地区土地改良区理事
徳永 順子 氏

徳永さんは、みやま市農業委員会で掲げた「いつか誰かではなく今こそ私達が行動しなければ誰もやらない 何も変わらないことを認識しよう！」という言葉を大切に、遊休農地解消など地域のために活動されています。

「役をお願いされたときには、その経験が自分自身の学びとなり、その学びをみなさんに広げることができると考え、積極的に引き受けている。周りの方への感謝を忘れず活動を続けていきたい。」とお話しされました。

◆パネルディスカッション◆「誰もが活躍できる地域農業を目指して～水土里ネットの挑戦～」



コーディネーター：全国土地改良事業団体連合会
土地改良研究所長 親泊 安次 氏
アドバイザー：福岡県みやま市農業委員会会長
山川地区土地改良区理事
徳永 順子 氏



パネリスト：長崎県土地改良事業団体連合会理事 松本 綾子 氏
熊本県土地改良事業団体連合会理事 酒瀬川 美鈴 氏
熊本県宇城市土地改良区職員 田尻 千恵 氏
熊本県農地整備課課長 大森 直樹 氏

「多様な人材が活躍できる地域整備・環境整備に必要なことは」「地域農業の担い手確保に向けた男女共同参画の可能性」「誰もが活躍できる地域農業に向けて水土里ネットができることは」を論点にパネルディスカッションが行われました。

地域において、農業は男性社会であるというイメージや役割分担意識を変えていく必要がある、女性が参加しやすい環境や仕組みづくり、若手農家の方の意見も取り入れられるよう、性別年齢を問わずに相互に認め合い、積極的に意見交換をすることが重要である、などの意見がありました。



熊本地震震災ミュージアム



草千里

◆現地視察(阿蘇コース)◆

- ・熊本地震震災ミュージアム
- ・草千里・山の駅物産館
- ・大切畑ダム
- ・阿蘇ミルク牧場

第47回全国土地改良大会佐賀大会に参加しました



「第47回全国土地改良大会佐賀大会」が令和7年10月15日(水)に、佐賀市のSAGAアリーナにおいて、「水を利用して土地を活かす さがで語ろう郷里の未来」を大会テーマに、全国土地改良事業団体連合会と佐賀県土地改良事業団体連合会の主催で開催されました。

全国から約4,500名の土地改良関係者が参集し、奈良県からは54名が式典に参加しました。

田島健一 佐賀県土連会長の開会挨拶、二階俊博 全土連会長の主催者挨拶に続いて、山口祥義 佐賀県知事と坂井英隆 佐賀市長より歓迎の言葉が、笹川博義 農林水産副大臣、宮原真一 佐賀県議会議長、進藤金日子 全国水土里ネット会長会議顧問より来賓祝辞がありました。

土地改良事業功績者表彰式では、奈良県から 東口義巳 白川溜池土地改良区連合理事長が全国土地改良事業団体連合会長賞を受賞されました。

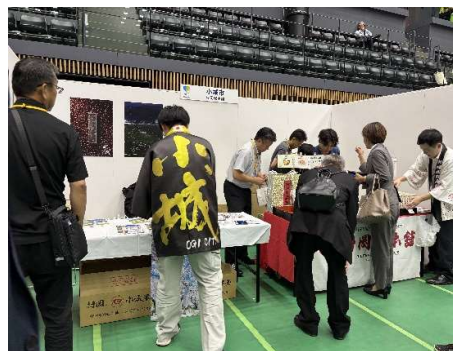


その後、青山健治 農林水産省農村振興局次長による「次世代へ、希望をつなぐ土地改良」と題した基調講演や、佐賀県白石土地改良区による「白石地域の農業農村の将来に向けてー白石土地改良区の変遷ー」と題した事例発表、佐賀県土連職員・佐賀県内土地改良区の理事長と職員による大会宣言が行われました。そして、田島健一 佐賀土連会長から次期開催県である奈良県土連の奥野信亮 会長へ大会旗の引継ぎが行われ、奥野会長による次期開催県挨拶がありました。最後に、さが水土里ネット女性の会 西田裕子 会長・織田伊津子 副会長による閉会挨拶があり、式典は盛況のうちに閉会しました。

また、大会会場では式典のほか、物産展や企業展示が行われ、多くの参加者でにぎわっていました。



会場のようす



物産展のようす



企業展示のようす

土地改良事業功績者表彰 全国土地改良事業団体連合会長賞



長年にわたり地域の農業振興、
土地改良事業の推進にご尽力されました

治道北部土地改良区 理事長
白川溜池土地改良区連合 理事長
奈良県土地改良事業団体連合会 監事

東口 義巳 様 が受賞されました。



次期開催県である奈良県ブースでは、県の農業農村をPRするため、JAならけんにご協力いただき、刀根早生柿2,000個と大和茶500パッケージを「奈良の柿PRLレディ」と「大和茶宣伝大使」が配布し、同じくお茶の産地である佐賀県嬉野市との共同ブースでは、大和茶を振る舞いました。そのほか、奈良県の農業農村振興や食と農に関するパンフレット等の配布を行うとともに、大和野菜のかご盛りを展示しました。

佐賀大会 事業視察のようす

城原金立揚水機場 - 佐賀県神崎市
＜土地改良区が担う用・排水管理＞

佐賀東部土地改良区が管理する城原金立揚水機場は、神籠池までをポンプ圧送する施設であり、途中に多数の分水工が存在するという特徴があります。ホースを使用した模型により、ポンプの運転・送水・管理について説明していただきました。



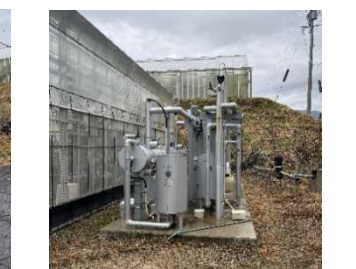
牛津川遊水地 - 佐賀県小城市
＜農地を有効活用した治水対策＞

武雄河川事務所では、牛津川で令和元年8月に発生した洪水への対応として、牛津川遊水地の整備、河川内の掘削、堤防の整備といった治水対策を行っています。普段は農地として利用する治水対策の水位低減効果について、パネルを使用し、説明していただきました。



ひれふり地区 - 佐賀県唐津市
＜中山間地における園芸団地の整備＞

ひれふり地区では約20haの園芸団地を形成しており、農業用ビニールハウスでのミカン栽培施設を対象とした地中熱源による空調について説明していただきました。

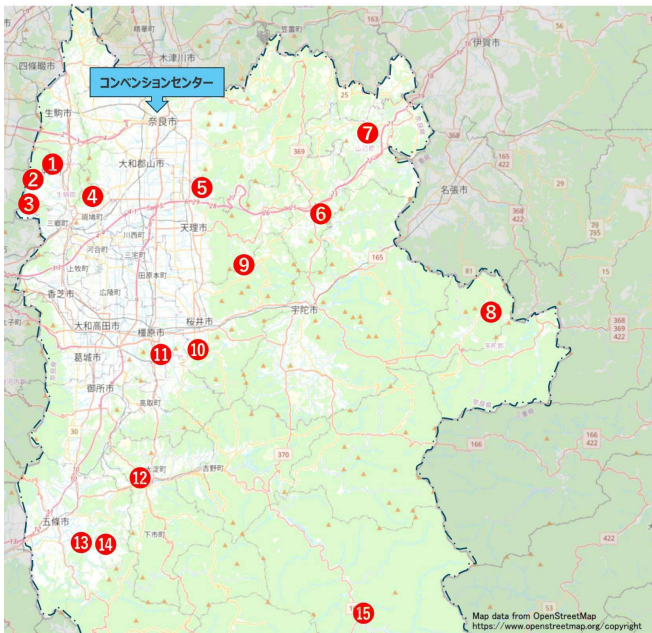


第48回全国土地改良大会奈良大会のお知らせ

令和8年11月17日(火)に開催する第48回全国土地改良大会奈良大会の事業視察地について、さる11月11日に開催された奈良土連理事会において下記の15ヶ所が承認されました。大会式典の翌日を中心に、全国から約2,000名が視察される予定です。事業視察地の関係者を含め、多くの方のご理解とご協力のほどよろしくお願いします。

15ヶ所の事業視察地が決定しました

奈良大会 事業視察マップ



- ① 特定農業振興ゾーン(平群上庄・梨本地区)道の駅大和路へぐり
- ② 県営農地開発事業 西和地区 JAならけん椿井営農経済センター
- ③ 信貴山のどか村
- ④ 斑鳩溜池
- ⑤ 白川溜池
- ⑥ JAならけん広域茶流通センター
- ⑦ 上津ダム
- ⑧ 曾爾高原ファームガーデン
- ⑨ 荒神の里・笠そば
- ⑩ NAFIC(なら食と農の魅力創造国際大学校)安倍校舎
- ⑪ 吉野川分水歴史展示館
- ⑫ 下湊頭首工
- ⑬ 一の木ダム、柿博物館
- ⑭ JAならけん西吉野柿選果場
- ⑮ 大迫ダム、森と水の源流館

「一の木ダム周辺クリーンアップ作戦」に参加

一の木ダムは、国営総合農地開発事業(五条吉野地区)の一環として建設され、全国有数の柿産地である約1,600haの樹園地にかんがい用水を供給しています。

総勢90名が班に分かれ、一の木ダム周辺の草刈り、ダム湖岸および沿線道路のゴミ拾いを行いました。

天気はあいにくの曇り空でしたが雨も降らず、参加者はそれぞれの活動に汗をかきながらの作業となり、無事予定の時間内に全ての作業を終えることができました。作業後は、柿選果場に立ち寄り、五條市特産の柿をお土産にされる方も多くいらっしゃいました。

日 時：令和7年10月25日(土)

主 催：五條吉野土地改良区

五條吉野基幹水利施設管理協議会

参加者：近畿農政局、奈良県、五條市、
関連企業、NPO法人美しい田園21、
奈良県土地改良事業団体連合会



堤体道路の清掃



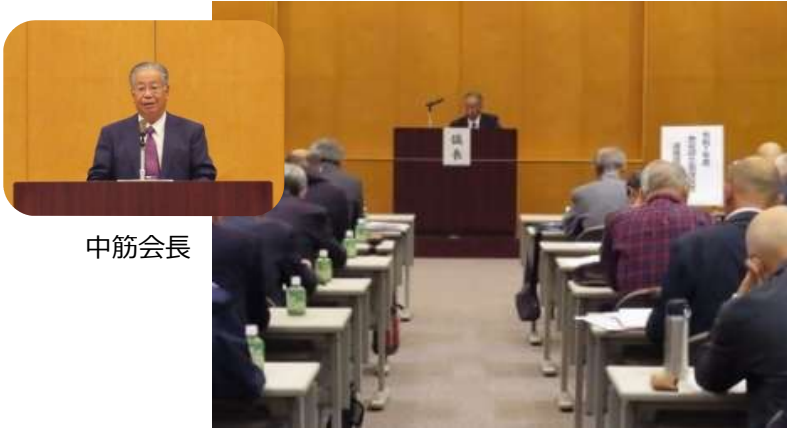
ダム左岸の草刈り



令和7年度 奈良県土地改良区連絡協議会総会 開催

令和7年10月30日(木)、大和平野土地改良区大会議室において、令和7年度 奈良県土地改良区連絡協議会の総会が開催されました。中筋会長が挨拶の後、議長として議事が審議されました。第1号議案及び第2号議案のほか、この協議会を発展させるため、土地改良区をはじめ県内の農業農村の携わる方々に参加いただけるよう規約の一部を変更し、名称も「奈良県土地改良連絡協議会」に変更することが承認されました。

議事後、来賓としてご臨席頂いた福谷奈良県副知事、池田奈良県議会議員、福井 堀井蔵参議院議員秘書よりそれぞれ挨拶を頂きました。



中筋会長

議事の様子



福谷副知事



井上監事



池田議員



福井秘書

議事

- ・第1号議案 令和6年度事業報告及び決算報告について
- ・第2号議案 令和7年度事業計画及び収支予算（案）について
- ・第3号議案 規約の一部変更について



金澤副会長 閉会挨拶

令和7年度 技術実践向上研修 開催

土地改良区機能強化支援事業の一環として「土地改良区技術実践向上研修」を去る10月30日(木)に大和平野土地改良区大会議室で土地改良区役職員等64名参加のもと実施しました。

最初に令和8年11月に開催する「全国土地改良大会奈良大会」の概要を奈良県土地改良事業団体連合会菅谷常務理事より説明の後、奈良大会PRビデオの上映がありました。次に最近の異常気象による米への影響を研究されている奈良県農業研究開発センターの小林総括研究員より「水稻の高温対策について」と題し講演を頂きました。米作を中心とする土地改良区の方々にとって有意義な内容でした。

そして、土地改良区または農業者に融資を行っている日本政策金融公庫 奈良支店融資課 村島課長より「公庫からの情報提供」として講演を頂きました。最後に、東京より水土里ネット会長会議顧問 進藤参議院議員にお越しいただき「情勢報告」として最近の農業をとりまく状況を講演いただきました。



菅谷常務理事



大会ビデオ

研修内容

- 「全国土地改良大会 奈良大会」 菅谷義寛
- 「水稻の高温対策」 小林幹生
- 「公庫からの情報提供」 村島 瞳
- 「情勢報告」 進藤金日子



小林総括研究員



村島課長



進藤参議院議員



公益財団法人 農業振興会館 第33回美アップ農村・レディセミナー 開催

令和7年11月11日(火)、奈良市高畑町の『奈良ホテル 金剛の間』において、公益財団法人農業振興会館主催の『第33回美アップ農村・レディセミナー』を開催しました。このセミナーは初代奥野誠亮理事長が農村で活躍する女性の社会進出を目的に33年前に始められた取組です。

今回は、地域の農業農村の振興にご活躍されている女性、農業農村に関心のある女性40名に参加いただき、はじめに主催者である公益財団法人農業振興会館 福井 常夫 副理事長より挨拶があり、次に奈良県食農部 中野 泰寿 部長より来賓のご挨拶をいただきました。



(公財)農業振興会館
福井 常夫 副理事長



奈良県食農部
中野 泰寿 部長



講演の様子



農林水産省 中国四国農政局
農村振興部 部長 山田 美紀 講師

『農業・農村における女性活躍の推進等』

昨今の米の状況や、食料システム法、土地改良法改正についての説明の後、農業・農村における女性活躍の現状や課題点などをお話いただきました。土地改良は、土地所有者に男性が多いため、男性が役員になる場合が多く、女性が参加しづらい現状があること、性別における無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)により女性活躍が阻まれている現状を解消していくことが求められていると学びました。

山田部長は平成24年から大和紀伊平野農業水利事務所で大和平野地域の農業振興に尽力をいただいていたご縁もあり、ご講演いただきました。

アンケートについて

セミナー終了後のアンケートでは、
『米や法改正など細かく説明していただき、内容のつまった一時間でした。色々なことを知れて良かったです。』
『農業の現状がよくわかりました。』
『夫が中心になって農業の維持をしているので、また家に帰って話を聞きたいと思います。』

などご感想をいただきました。



セミナー参加者による集合写真—奈良ホテル玄関前—

講演終了後に、『大和の間』で開催された情報交換会では、はじめに公益財団法人 農業振興会館 奥野 信亮 理事長よりご挨拶があり、次に奈良県 福谷 健夫 副知事より来賓挨拶をいただきました。続いて、奈良ホテルによるテーブルマナーの講習を受けながら、奈良県の農業の現状や今後についての情報交換などが活発に行われました。



(公財)農業振興会館
奥野 信亮 理事長



奈良県 福谷 健夫 副知事



テーブルマナー講習

また、(公財)農業振興会館 菅谷 義寛 常務理事より令和8年11月17日(火)に開催の「第48回 全国土地改良大会 奈良大会」についての説明の後、奈良大会PR動画を上映しました。最後に、奈良県土地改良事業団体連合会 長谷川 憲生 常務理事より閉会の挨拶がありました。



(公財)農業振興会館
菅谷 義寛 常務理事



奈良県土地改良事業団体連合会
長谷川 憲生 常務理事



情報交換会の様子

令和7年度 奈良県土地改良事業団体連合会 理事会 開催

令和7年11月11日(火)、奈良市高畑町の奈良ホテル「若草の間」において、令和7年度 奈良県土地改良事業団体連合会 理事会を開催しました。理事会の開催に先立ち、先の天理市長選で4期目の当選をはたされた、並河理事へ花束贈呈を行い、続いて奥野会長の挨拶の後、県より来賓として出席頂いた食農部 中野部長よりご挨拶を頂き、上田副会長（大和郡山市長）を議長とし、議案が審議され承認を得ました。

- 【議 事】
- ・第1号議案 令和7年度事業並びに会計状況の中間報告について
 - ・第2号議案 第48回全国土地改良大会奈良大会について
 - ・事業視察地等の決定



奥野会長



中野食農部長



並河理事



上田議長



松井総括監事



事務局



令和7年度 農業農村整備事業意見交換会【NNキャラバン】

農林水産省の幹部職員をお迎えし、県・市町村・土地改良区と意見交換会が開催されました。本会は国の農業農村整備に関する予算や制度についてご説明いただくとともに、県内の実情や地域の声を直接お伝えする貴重な機会となっております。この意見交換会は毎年2回県主催で実施しており、奈良県にゆかりのある国の職員の皆様にご参加いただいています。奈良ならではの課題や提案に理解を深めていただくことで、県から農林水産省へ行う政策提案・要望活動と並び、大変貴重な場となっております。今回は、農村振興局農地整備課 松本紘明事業推進企画官（前近畿農政局設計課長）、同水資源課 田中俊也課長補佐（前近畿農政局土地改良技術事務所）のお二人に来県いただき、活発な意見交換を行いました。

開催日
令和7年11月13日
@大和平野土地改良区事務所

内 容
・令和8年度農業農村整備予算概算要求
・農業農村整備事業の政策的位置付け
・土地改良事業の広報

土地改良区参加者
西和土地改良区 中筋理事長
大和平野土地改良区 吉村専務理事
倉橋溜池土地改良区 大倉理事長
白川溜池土地改良区連合 東口理事長
北倭土地改良区 尾山副理事長

【各改良区からのご意見】

- ・ため池維持管理に対する補助事業や制度を拡充
- ・水利施設の突発的な事故や未然防止への支援の充実
- ・新規需要米の作付けに対する助成制度の見直しが必要
- ・スマート農業導入には機器が高価でメーカーとも情報共有をするよう要望
- ・コメの高温障害対策や新品種導入等でかんがい期間が延長
- ・農業農村整備予算がどう活用され、農業に役立ち、国民生活を良くしているのか関係者のみならず消費者に対する広報が必要



令和7年度近畿ブロック女性理事意見交換会

令和7年12月1日(月)、和歌山市内のグランヴィア和歌山において、近畿水土里ネット連合協議会当番県の和歌山県土連主催で「令和7年度近畿ブロック女性理事意見交換会」が開催されました。近畿の各府県の水土里ネット女性の会等から74名（うち女性59名）が集まり、奈良県からは、大和平野土地改良区女性理事2名に加え改良区事務局等と合わせて8名が参加しました。はじめに、主催である和歌山県土連 井賀常務理事の挨拶があり、研修会に入りました。

研修会では、「土地改良区の理事に必要な事項について」全国水土里ネット土地改良広報センター 牧 千瑞 所長より土地改良の理事になられた方へ向け、土地改良法や土地改良事業、土地改良区の業務と課題、理事の職責等についてご説明がありました。次に、グループワークに移り、「土地改良区のこれからを考える」をテーマに、日頃の業務で感じていること、土地改良区の課題等について意見交換会を行いました。最後に、基調講演として全国水土里ネット会長会議顧問 進藤金日子参議院議員が、リモートで「土地改良は日本の命綱」と題し、食料・農業・農村基本法や米を取り巻く状況、女性理事の登用等、最新の情勢についてお話いただきました。

去年に続き2回目の開催となり、普段会うことのない顔ぶれで意見交換ができ、一層ネットワークが広がり有意義な研修となりました。

進藤金日子 顧問
リモートにより基調講演



大和平野土地改良区 栗山理事
グループワークでの意見を発表



会場の様子

奈良県農村地域づくり協議会員のご紹介

大淀町中増地区(大淀町建設産業課)

合い言葉は、『ワクワクから人が繋がる！』

私たちは、日常の食を支える「お米」を大切に考え活動を行っています。

中増地区は、大淀町東部に位置する中山間地で、山間の谷を拓いて作られている水田は、昔ながらの田舎の風景を残しており、また、この地域は江戸時代以前から茶業が盛んで、日干番茶（にっかんばんちゃ）と呼ばれる、茶葉を揉まず天日干しにする伝統的製法のお茶づくりが今なお残っています。一方、農業者の高齢化や後継者不足により、美しい里山の風景である水田や茶畑が失われつつあり、担い手の確保が喫緊の課題となっているものの、担い手となる人にこの地域の魅力に気づいていただくことが非常に難しいと考えています。

地区ではこの課題解決に向け、お米やお茶の生産者だけでなく、お米の卸売店、和菓子店、小売店、飲食店など、お米に関わる事業者とタッグを組み、田んぼアートをはじめ、お餅つきや焼きもちづくり、お茶の焙じ体験など、ワクワクできるような都市農村交流体験イベントを行い、私たちの日常の食を支えるお米やお茶など、『この地区がもつ里山の魅力』に気づいていただける取り組みを進めています。



メンバー考案のオリジナルキャラクターのはじける笑顔がとても可愛らしく仕上がりました。

もみ殻アートを創っておにぎりを食べよう

令和7年11月30日(日)

稲刈りをした後の田んぼに絵を描くもみ殻アート。令和2年から始まったこの取り組みは、「今年はどんな絵なんだろうか？」と地域の方や来訪される方が毎年楽しみにしていただいています。準備の測量作業から地域の方がいっしょになって参加し、もみ殻アートの完成後には、参加者全員でこの地域のお米をかまどで炊き、炊き立てをおにぎりにして堪能しました。

位置図



もみ殻アートを一目見に、ぜひ訪れてみてください。
(令和8年3月中旬頃まで)

令和7年度
これからの行事

令和8年2月8日(日)
※予定

「お米とお茶の体験教室」を開催

(内容) ・米粉を使ったパンケーキづくり
・番茶餅焼き体験
・炊き立てご飯でおにぎりづくり
(実施内容は変更することがあります)

【募集方法等】

大淀町いきいきプロジェクト
フェイスブックで近日募集予定



「未来へつなごう！ふるさとの水土里(みどり)子ども絵画展 2025」受賞作品

「未来へつなごう！ふるさとの水土里(みどり)子ども絵画展 2025」には、全国から2,625点の作品応募があり、その中から大臣賞等6作品、協賛企業・団体賞27作品、水土里ネット賞56作品、入選141作品、佳作170作品が選考されました。奈良県内小学校・絵画教室等からは59作品の応募があり、その中から水土里ネット奈良 会長賞、入選、佳作の9作品が選ばれました。おめでとうございます。

🏆【水土里ネット奈良 会長賞】



「お米の苗作り」
大和郡山市立 治道小学校 6年生
村井 友樹 さん

🏆【入選】



「夕焼け田んぼ」
大和郡山市立 治道小学校 6年生
林 莉里 さん



「桜と田植え」
宇陀市立 大宇陀小学校 5年生
岸本 雛花 さん



「未来へつなぐ田んぼ」
橿原市立 耳成西小学校 6年生
松本 彩愛 さん



「ミャクミャクかかしとたな田」
橿原市立 耳成西小学校 2年生
中西 結香 さん



【佳作】



「きれいにそだてているたんぼ」
橿原市立 新沢小学校 4年生
岡本 愛結 さん



「夏のたんぼ」
宇陀市立 大宇陀小学校 3年生
堀 未羽 さん



「田植え」
宇陀市立 大宇陀小学校 1年生
奥峯 悠仁 さん



「100ぴきのおたまじゃくしさん、
なにいろのカエルになろうかな？」
学校法人斑鳩学苑 法隆寺幼稚園 4歳
井筒 さくら さん

「未来へつなごう！ふるさとの水土里子ども絵画展」は、未来を担う子どもたちの絵画を通じて、農業・農村への関心をより深めることを目的に2000年から開催されています。田んぼや畑、農業用水路、農業用ため池などの風景や、農作業風景、大切な水路を守っている人たち、農業に関する祭りや風習、郷土料理など農業や農村に関連するものをテーマにした作品を募集しています。

なお、今年度の受賞作品は、12月4日(木)～12月11日(木)に東京都美術館で展示されました。入選までの作品は、全土連HP公開されている電子ブックで閲覧できます。子どもたちの作品を是非ご覧下さい。

全土連HP (<https://www.inakajin.or.jp/works/pr/kids-art>)

ご応募をいただいた皆様、ありがとうございました。
2026年もたくさんのご応募をお待ちしております。

農家負担金軽減支援対策事業のご紹介～令和7年度に拡充措置が講じられました～

1. 地域生産基盤保全強化支援事業【利子助成】 令和7年度新規

国の補助を受けて実施された土地改良事業等※の実施地区において、要件を満たすことが確実と見込まれる地区に対して、保全強化支援計画に従って、受益者負担金の償還利子相当額の5/6を限度として助成 ※担い手育成農地集積事業(公庫の無利子貸付)の対象事業を除く。

採択要件(1～4のいずれかに該当)

1. 目標年度までに、担い手農地利用集積率が以下のとおり増加すること。

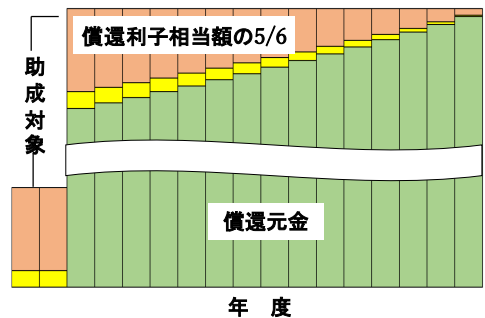
採択時	目標
80%未満	10ポイント以上増加※
80～90%未満	5ポイント増加
90～95%未満	95%以上
95～100%未満	シェア増加
100%	維持

2. 目標年度までに、高収益作物※の生産額がおおむね20%以上増加すること。

※ 高収益作物とは、主食用米と比べて面積当たりの収益性が高い作物（野菜、花き・花木、果樹など）をいう。

3. 輸出事業計画の認定規程に基づき認定された輸出事業計画との連携が図られること。
4. 先端的な技術を活用した生産方式との適合が図られること。

利子助成のイメージ



借入額が多ければ利子が大幅に軽減！

県営事業において、54百万円を6年間（合計3億24百万円）2.05%、17年償還(うち据置2年)で借りた場合の最終償還までの負担額

償還利子額 69百万円
△利子助成額 57百万円
実質利子負担額 12百万円

2. 農地有効利用推進支援事業【利子助成】

農地耕作条件改善事業を実施し、担い手への農地利用集積率が8割以上となる地区に対して、農地利用推進計画に従って利子助成

採択時	目標
80%未満	80%以上
80～100%未満	シェア増加
100%	維持

※採択時の集積率80%以上の地区が対象に追加

- (1) 受益者負担金の償還利子相当額の5/6を限度として助成〔事業費助成型〕
- (2) 農地中間管理機構が農地の出し手(所有者)に対する賃料の一括前払に必要な借入資金に係る償還利子相当額を助成〔一括前払助成型〕

なお、災害時に利用できる**災害被災地域土地改良負担金償還助成事業【利子助成】**、土地改良法に基づく土地改良事業等に利用できる**水田・畑作経営所得安定対策等支援事業【無利子貸付】**もあります。

お問い合わせは 奈良県土地改良事業団体連合会 総務企画課(TEL:0744-29-1310)まで。

令和7年度行事予定

開催月	会議・行事名	開催(予定)場所
2月3日(火)	奈良県農業農村整備事業推進協議会 県外研修 公益財団法人 農業振興会館 最先端農業を学ぶセミナー	愛知県
2月5日(木)	「第48回全国土地改良大会奈良大会」第3回大会推進本部会議	大和平野土地改良区
2月7日(土)	多面的機能支払交付金研修会・農村振興シンポジウム	大和高田市
2月19日(木)	奈良県土地改良事業団体連合会 監事会・理事会	大和平野土地改良区
	公益財団法人 農業振興会館 理事会	大和平野土地改良区
3月5日(木)	令和7年度換地計画実務研修並びに所有者不明農地解消に関する研修会	大和平野土地改良区
3月20日(金・祝)	第66回 奈良県土地改良事業団体連合会 通常総会	大和平野土地改良区
	公益財団法人 農業振興会館 令和7年度 農業振興功績者表彰式	大和平野土地改良区
※ 今後、変更する場合があります。		

土地改良に関する法律相談

本会では、法的な判断が必要とされる土地改良区に関する案件について、顧問弁護士による法律相談を行っております。

※県に対する許認可(定款変更の手続きなど)等の行政事務は除きます。

実施日:令和8年 2月25日(水)

令和8年 3月11日(水)

時 間:13:30～

場 所:大和平野土地改良区事務所 3階会議室

弁護士:おおみね法律事務所 石黒良彦 氏

費 用:無料

申込み:奈良県土地改良事業団体連合会 総務企画課

T E L :0744-29-1310

【土地改良区に関する案件例】

- ・賦課金の徴収について
- ・相続未登記による所有者不明の土地の取扱いについて
- ・土地改良区の財産処分について
- ・土地改良区の土地に越境している樹木の剪定における隣人とのトラブルの対処について
- ・一部を農道に提供されている農地の取扱いについて 等

● 編集後記 ●

旧年中は大変お世話になり、誠にありがとうございました。

昨年は、猛暑のなか雨が少なく、米作りにとって大変な年ではありましたが、吉野川分水やため池など農業用水利施設が大活躍し、土地改良の大切さを再認識することが出来ました。

令和8年度開催の第48回全国土地改良大会奈良大会がウマくいきますよう、職員一丸となって馬力全開で駆け抜けてまいります。本年も引き続きご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

(編集部)